

福岡市の水事情についてのご報告と節水のお願い

福岡市における水需要の約3分の1を支える筑後川水系では、昨年9月以降の記録的な少雨により、水源状況が大変厳しくなっています。筑後川関連6ダム※1の合計貯水率（湧水対策容量分を除く）は、2月9日時点で15.8%まで低下しています。同日時点の福岡市関連9ダム※2の合計貯水率は54.5%（湧水対策容量分を除くと31.3%）で、現時点で直ちに家庭等への給水に影響が出る様な状況ではありませんが、このまま少雨が継続してしまうと、福岡市の水事情も大変厳しくなっていくことが見込まれます。この様な状況を踏まえ、福岡市では1月28日に「湧水対策会議」を設置し、市民の皆さまや事業者の皆さまに、より一層の節水を呼びかけています。

地理的に水資源に恵まれていない福岡市では、過去に幾度となく湧水に見舞われてきました。中でも昭和53年の湧水では最大で1日19時間もの断水を余儀なくされ、給水制限日数は287日間に及びました。さらに、平成6年には年間降水量が福岡管区気象台の観測史上最も少なく、昭和53年を上回る厳しい気象状況に見舞われ、再び給水制限日数が295日にも及ぶ大湧水となりました。福岡市では、これらの大湧水を教訓として、「水は限りある貴重な資源」であることを強く再認識し、様々な「水源開発」を行うのと同時に、市民・事業者・行政が一体となった「節水型都市づくり」を推進してきました。その結果、湧水への備えは大幅に向上してきましたが、近年は、大雨の発生頻度が増加し、雨の強さも増す傾向にある一方、雨がほとんど降らない日も増えるなど、雨の降り方が極端になってきており、今後、過去の大湧水のような厳しい状況となる可能性も十分に考えられます。

今回の湧水を乗り切っていくためには、市民の皆さま一人ひとりの水を大切に使う心掛けが欠かせない状況となっております。最新の水源状況や節水方法のポイントなどに関しては、福岡市水道局のホームページに詳しく掲載されておりますので、適宜ご参照頂きながら、なお一層の節水へのご協力を宜しくお願い致します。

※1 筑後川関連6ダム：江川ダム、寺内ダム、小石原川ダム、筑後大堰、合所ダム、大山ダム

※2 福岡市関連9ダム：南畑ダム、五ヶ山ダム、脊振ダム、曲渕ダム、江川ダム、久原ダム、長谷ダム、猪野ダム、瑞梅寺ダム

福岡市における過去の渇水時と現在の状況比較

	昭和53年渇水	平成6年渇水	現 在
給水人口	1,028 千人	1,250 千	1,654 千人 ※令和6年度
給水戸数	350,788 戸	594,596 戸	972,034 戸 ※令和6年度
関連ダム合計利水容量 (ダム数)	37.147 千m ³ (6ダム)	42,997 千m ³ (7ダム)	78,347 千m ³ (9ダム)
最低貯水量 (貯水率)	2,661 千m ³ (7.36%)	6,528 千m ³ (15.18%)	——
年間降水量	1,138 mm (S53.1月~12月)	891 mm (H6.1月~12月)	1,541.5 mm (R7.1月~12月)
給水制限期間	S53.5.20 ~S54.3.24	H6.8.4 ~H7.5.31	——
給水制限日数	287 日間	295 日間	——
最大給水制限時間	19 時間	12 時間	——
平均給水制限時間	14 時間	8 時間	——
平均配水量	284,996 m ³ /日 ※昭和53年度	369,704 m ³ /日 ※平成6年度	428,396 m ³ /日 ※令和6年度
前年度平均配水量	357,072 m ³ /日 ※昭和52年度	411,138 m ³ /日 ※平成5年度	421,990 m ³ /日 ※令和5年度